

大雪山の火山活動解説資料（令和8年8月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1、図2-①～③、図3～6）

監視カメラによる観測では、旭岳地獄谷爆裂火口の噴気の高さは火口上200m以下で経過しました。引き続き噴気活動は低調な状態で推移しています。

5日及び18日に国土交通省北海道開発局の協力により上空からの観測を実施しました。昨年の観測（2025年8月）と比べ、旭岳地獄谷爆裂火口の噴気の状況や地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。また、御鉢平カルデラでも地表面温度分布に特段の変化はなく、引き続き噴気は認められませんでした。

・地震及び微動の発生状況（図2-④）

火山性地震は少なく、地震活動は低調な状態です。

火山性微動は観測されていません。



図1 大雪山 西側から見た旭岳の状況（忠別湖東監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokujji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』及び『電子地形図（タイル）』、『基盤地図情報』を使用しています。

次回の火山活動解説資料（令和8年9月分）は令和8年10月8日に発表する予定です。

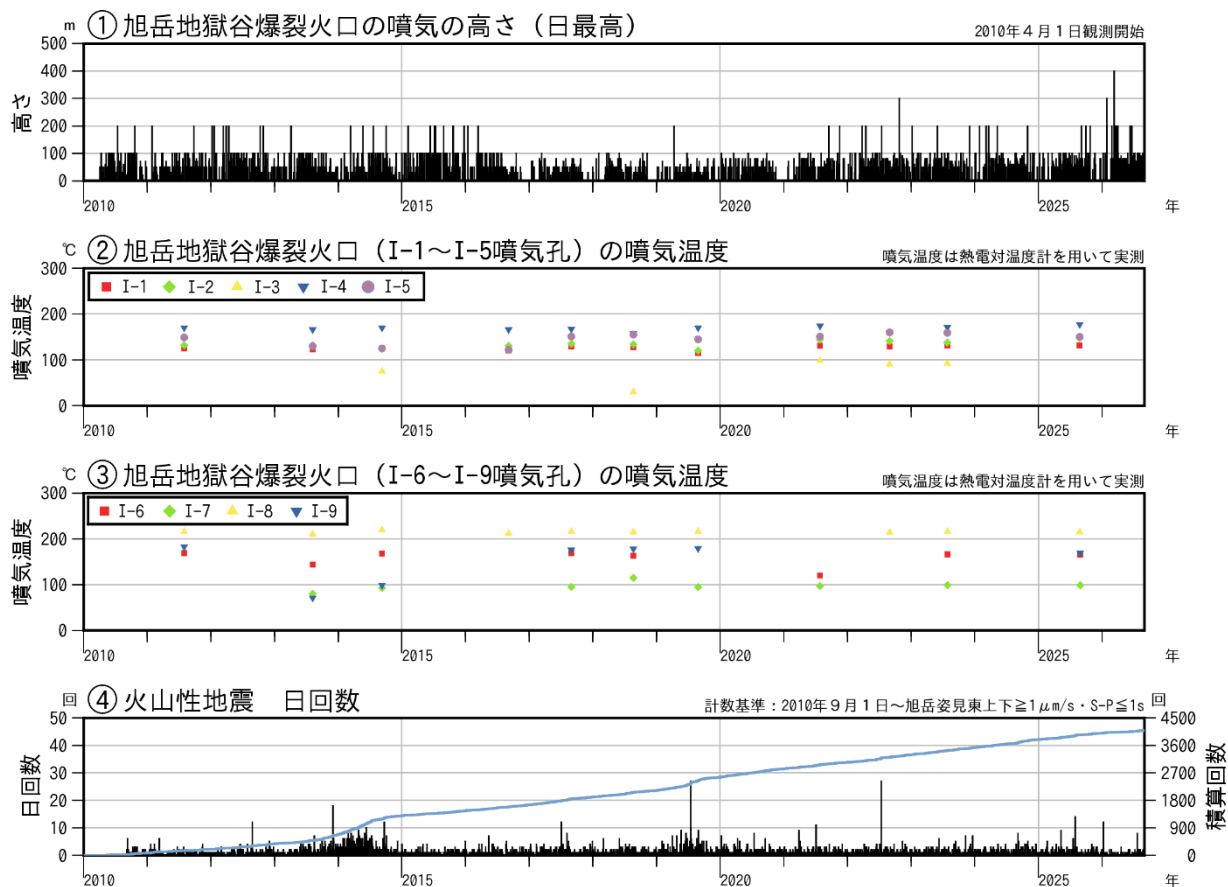


図2 大雪山 火山活動経過図（2010年4月～2026年8月）

②③の噴気温度の測定位置は、図4（噴気孔の位置図）を参照してください。

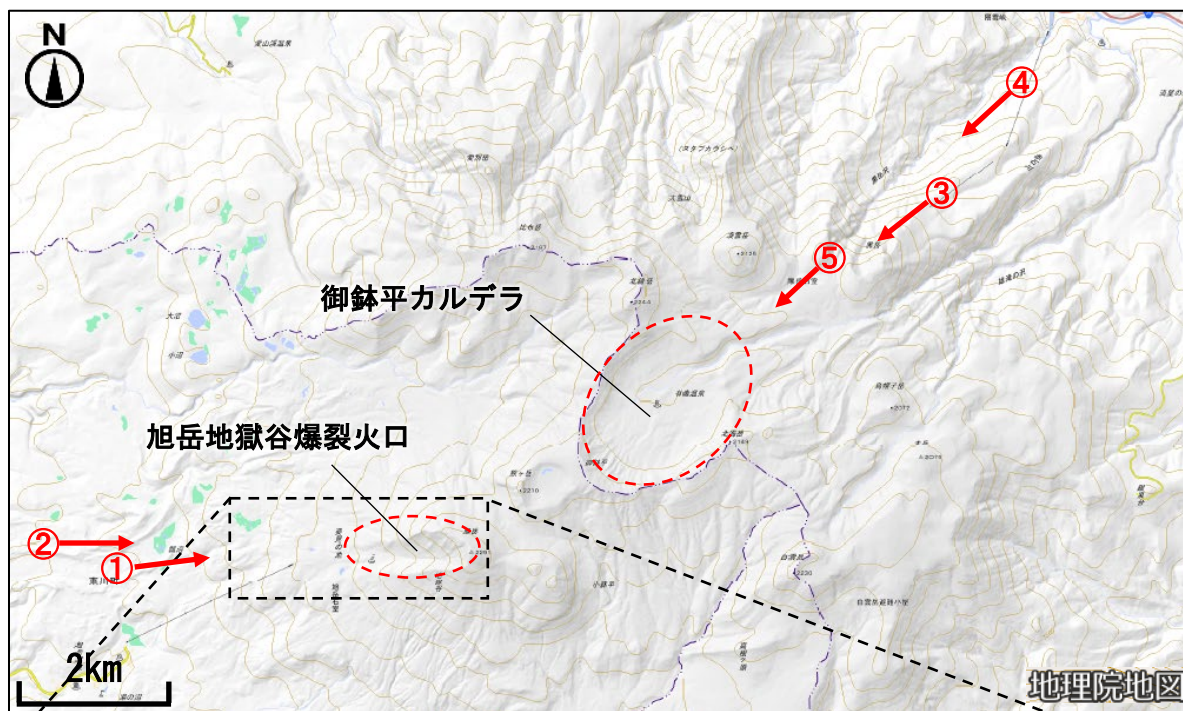


図3 大雪山 周辺図と写真及び赤外熱映像の撮影方向（矢印）

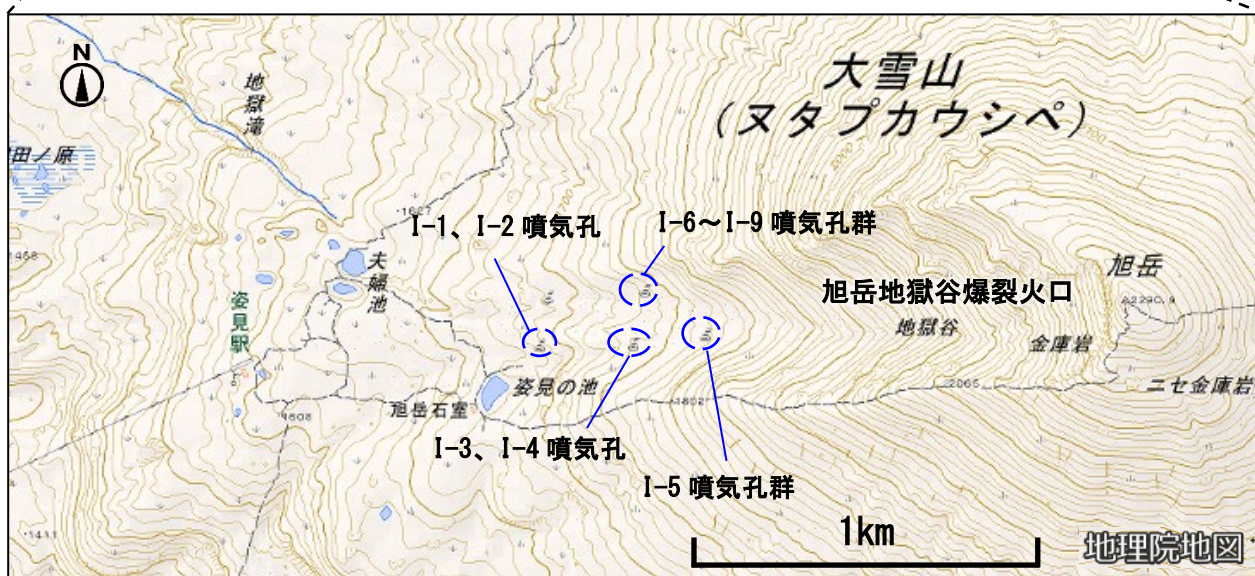


図4 大雪山 旭岳地獄谷爆裂火口内の噴気孔の位置（破線囲み）

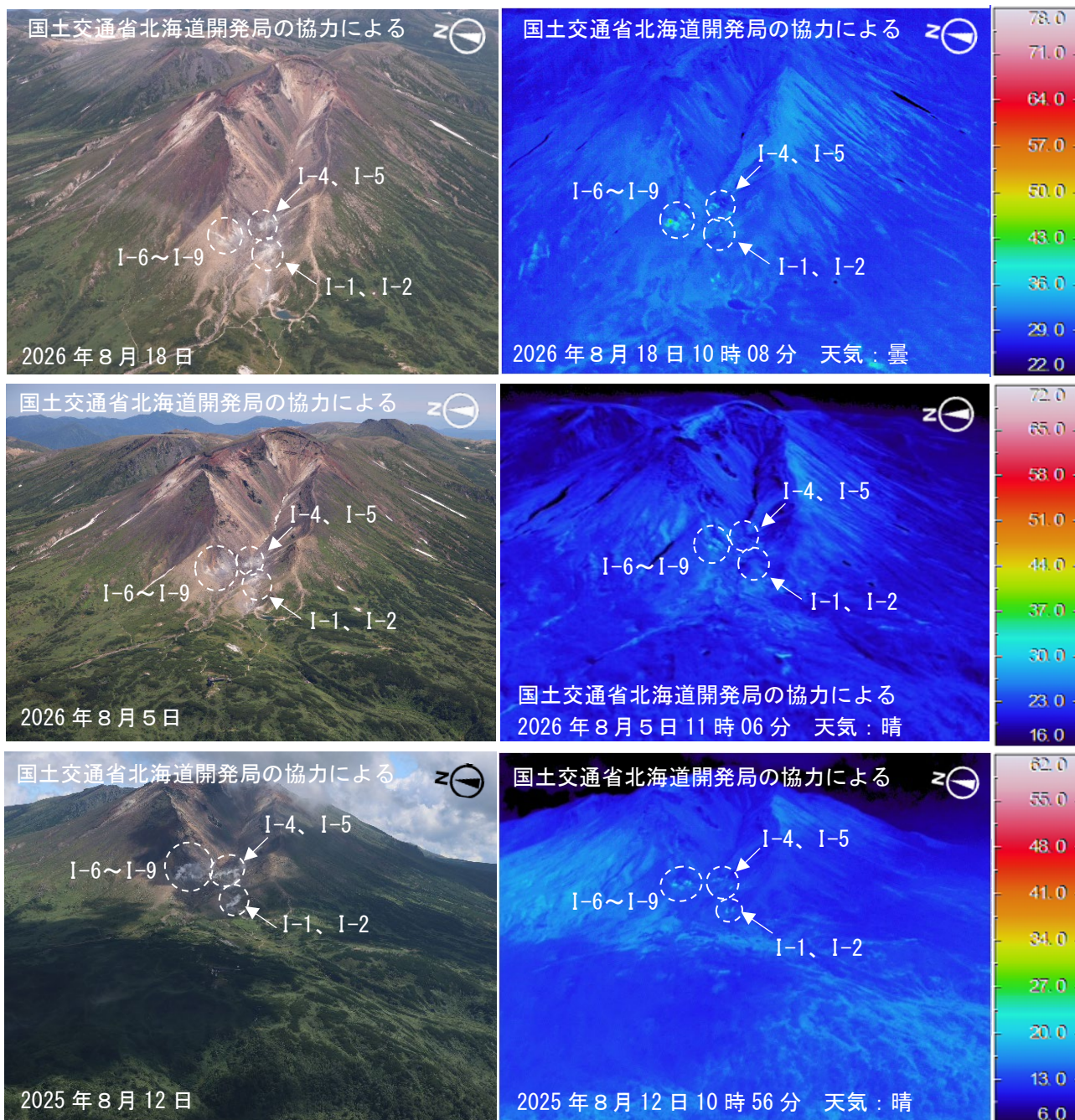


図5 大雪山 赤外熱映像観測装置による旭岳地獄谷爆裂火口の地表面温度分布

上段・下段：西側上空（図3の①）から撮影 中段：西側上空（図3の②）から撮影

- ・2025年8月の観測と比べて、旭岳地獄谷爆裂火口の噴気の状態や地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。

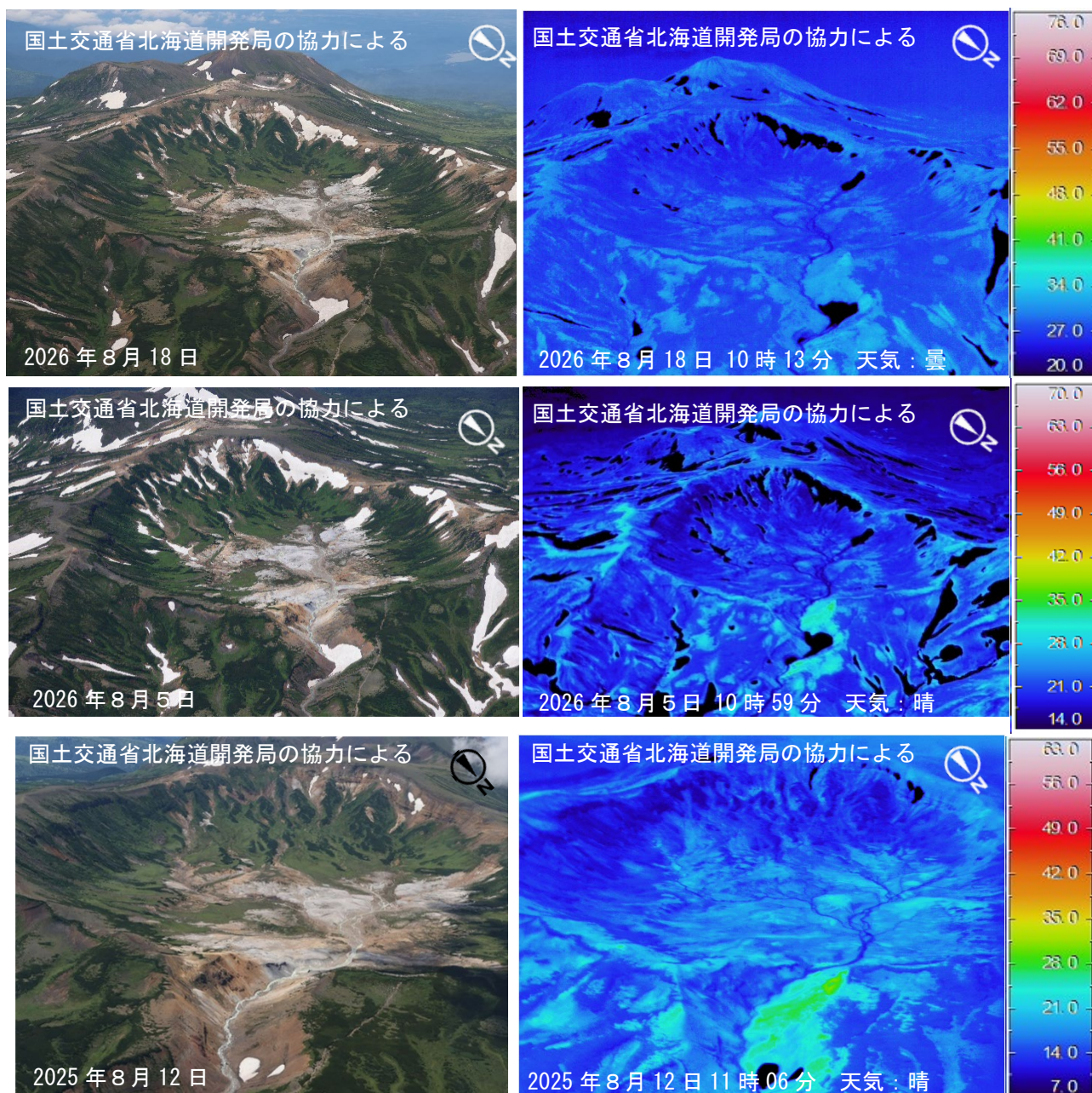


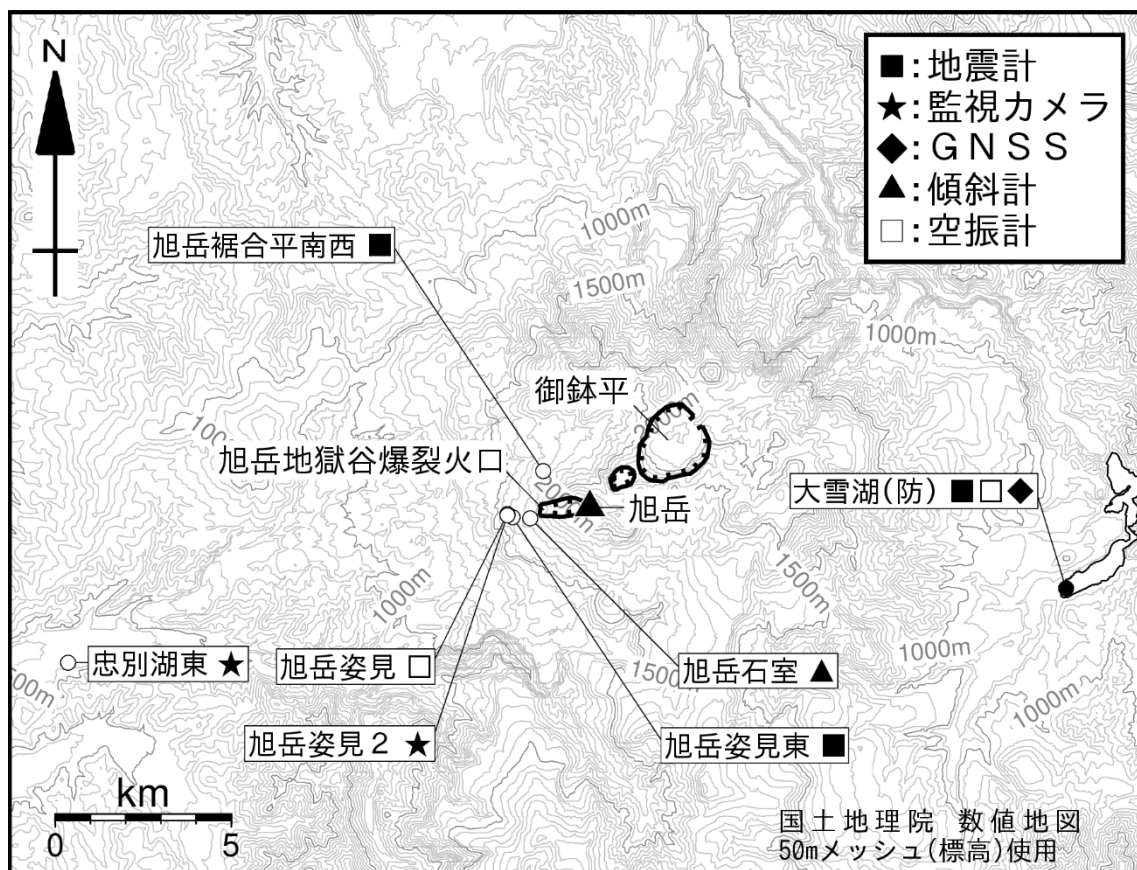
図6 大雪山 赤外熱映像観測装置による御鉢平カルデラの地表面温度分布

上段：北東側上空（図3の③）から撮影

中段：北東側上空（図3の④）から撮影

下段：北東側上空（図3の⑤）から撮影

- ・カルデラ内に噴気は認められず、2025年8月の観測と比べて地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は他機関の観測点位置を示しています。
(防):国立研究開発法人防災科学技術研究所

図7 大雪山 観測点配置図